

健康とメディア・リテラシーに関する研究

大学院健康マネジメント研究科
後期博士課程3年 篠原圭子

はじめに

テレビやラジオの多チャンネル化やインターネットや携帯電話といった新しい形態のメディアの登場により、身の回りに流通する情報の量は急激に増え、また、情報入手の利便性は格段に高まっている。しかし、氾濫する情報には有害なものも含まれており、メディア・リテラシー(メディアの特性や利用方法を理解し、適切な手段で自分の考えを他者に伝達し、あるいは、メディアを流れる情報を取捨選択して活用する能力)の重要性は日々高まっている。

健康に関する情報(健康情報)もまた玉石混交であり、例えば、ダイエット食品をインターネット通販で購入した消費者が健康被害に遭うという事故も起きている。したがって、健康情報に対するメディア・リテラシーの高低は人々の健康に影響を及ぼすと考えられる。しかし、国内では、メディア・リテラシーの認知度・理解度は必ずしも高くない。

メディア・リテラシーに関する先行研究では、Ikuta・Gotohら(2001)は情報収集や情報処理能力が高く、メディア接触度が多い人ほど、メディア操作スキルも高く、メディア特性の理解も深化しWeb情報の信頼性はそれほど高くないと知覚する傾向を見だしている。遠藤ら(2007)は、健康情報の信頼性の判断には情報に疑問を感じた経験、年齢、インターネット使用の経験といった個人背景との関連性が高いこと、また、米国との比較において健康情報の信頼性とメディア・リテラシー高低との関連性を指摘した。

主観的健康感(主観的健康感)は包括的な健康指標として、疾患の罹患や死亡など客観的健康状態に対して極めて強い関連性を持つとされる。Idlerら(1997)は27の追跡研究(2-28年)のほぼ全ての研究で死亡を予測していること、星ら(2010)は精神的により良い状態が3年後の身体的能力を維持させる因果効果があることを報告している。

以上を踏まえ、次の2つの研究活動を行うこととした。

- (1) メディア・リテラシーに関する研修セミナーを通じて基礎知識を得る。
- (2) 一般成人男女を対象にしたアンケート調査により、各種メディアへの接し方やメディア・リテラシーの度合い、主観的健康感を測定し、メディア・リテラシーと主観的健康感の関係およびその他の要因との関連性について検証する。

研修セミナー

「FCT 第13回メディア・リテラシー研修セミナー」

日程: 2010年8月7日(土)~8日(日)

会場: 神奈川県かながわ女性センター

主催: FCTメディア・リテラシー研究所

参加者: 16名(大学教員、行政職員、出版関係者、NPO/NGO関係者、大学院生)

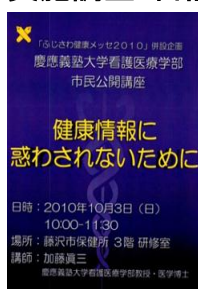
内容: 1日目: 8月7日(土)

メディア・リテラシーを学ぶ
メディアは「現実」を構成する
テレビCMと私たち
広告が作り出す世界

2日目: 8月8日(日)

メディア制作に向けて
私たちの作品を制作する
コミュニケーションを創りだす
まとめと今後の課題

実施調査: 自記式質問紙調査



(1) 対象: 「ふじさわ健康メッセ2010」公開講座「健康情報に惑わされないために」参加者

日程・場所: 2010年10月3日(日) 於: 神奈川県藤沢市保健所・南保健センター
配布数/有効回答数: 19/18

(2) 対象: 穂の国青年会議所公開委員会「メディア・リテラシーを身にまとい!」参加者

日程・日時: 2010年10月6日(水) 於: 愛知県豊川市豊川商工会議所
配布数/有効回答数: 40/40

回答者の特性

	藤沢市	豊川市
男女比	男性 38.9%(7) / 女性 61.1%(11)	男性 97.5%(39) / 女性 2.5%(1)
平均年齢	56.3(SD16.7) 歳	37.3(SD7.9) 歳
平均同居人数	2.6(SD1.2) 人	3.6(SD1.3) 人
学歴 (高校/短大・高専/大学・大学院)	16.7% (3)/22.2% (4)/61.1% (11)	17.5% (7)/7.5% (3)/75.0% (30)

メディア・リテラシー度合い(注1)別主観的健康感(注2)の平均点

メディア・リテラシー	藤沢市			豊川市		
	40 歳未満	40 歳以上	合計	40 歳未満	40 歳以上	合計
n	4	14	18	33	7	40
～第1四分位点		3.25	3.25	3.38	3.50	3.40
～第2四分位点	5.00	2.50	3.33	3.70	4.50	3.83
～第3四分位点		4.00	4.00	3.00	4.50	3.23
～第4四分位点	4.67	3.50	4.20	2.75	5.00	3.20

注1)11 項目の質問に対して「5: そう思う」から「1: そう思わない」の 5 件法で回答し、合計得点でメディア・リテラシーの度合いを算出している(高得点ほどメディア・リテラシーが高い)

注2)「5: とても良い」「4: 良い」「3: ふつう」「2: あまり良くない」「1: 悪い」の 5 件法での回答

【藤沢市】男女間で「主観的健康感」に差を認めた(0.037<0.05(両側)(Willcoxon 検定)。女性では、「年齢」と「主観的健康感」との間で強い負の相関(0.01<0.05, $r=-0.727$)、即ち、高齢になるほど、主観的健康感が下がる傾向である。

【豊川市】40 歳以上でメディア・リテラシー度合いの内、情報の送り手の立場や発信源、複数のメディアからの情報を通して得られた情報の信頼性を判断しようとする能力(「メディアへの批判的思考」と「主観的健康感」との間に強い正の相関(0.031<0.05, $r=0.801$)、即ち、「メディア・リテラシー」が高い人ほど、「主観的健康感」が高い傾向である。

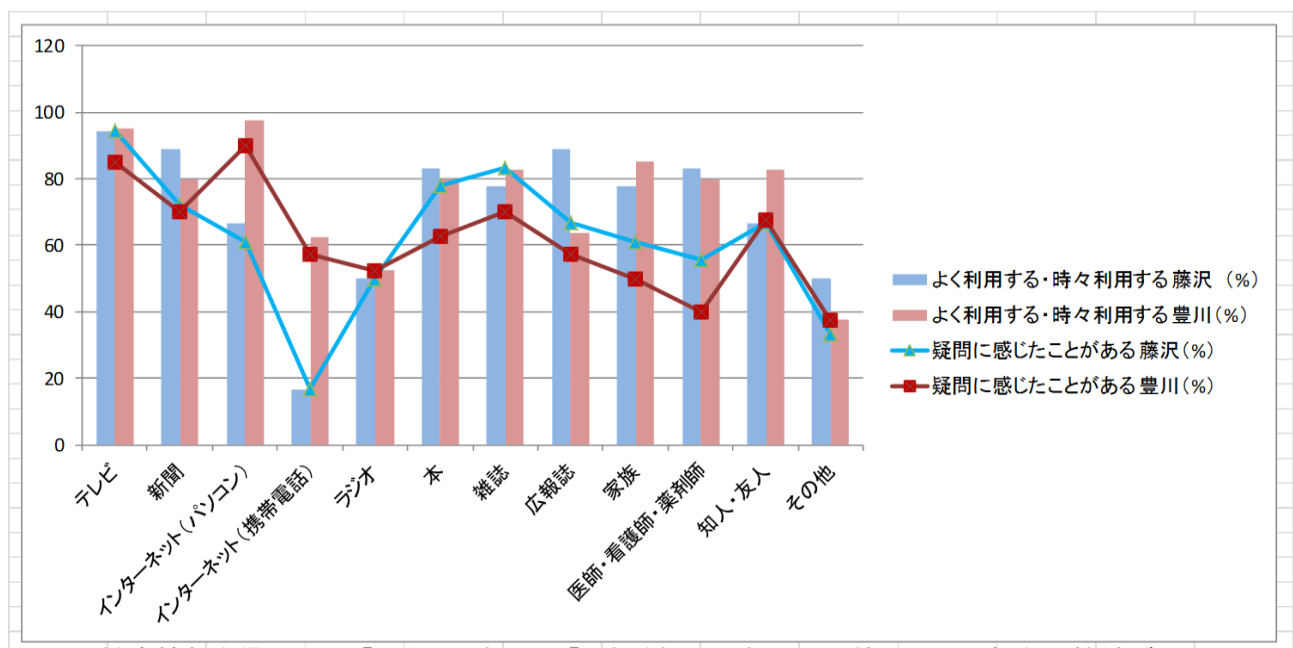


図1: 健康情報を得る手段(「よく利用する」+「ときどき利用する」と回答した人の割合)(棒線グラフ)と健康情報の信頼性に疑問を感じた経験(「ある」と回答した人の割合)(折れ線グラフ)

以上は研究結果の一部の報告ですが、今後さらに詳細な分析と考察を続け、メディア・リテラシーと主観的健康感およびその他の要因との関連性について検証し、今日の情報社会に必要な能力向上を進める糸口を身出したい。

謝辞

今回のメディア・リテラシー研修セミナーへの参加とフィールド・ワークとしての自記式質問紙調査の実施は、2010 年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」支援により行われた。